



【巻頭言】

「春」



大友あかね(MC2)

春ですね。この研究室で2年間学んだ者として、この研究室で自分が学んだことは何であったのかを記したいと思います。野外教育とえば、「自然」「人」「体験」という3つのキーワードで語られることが多いかと思いますが、今回は「人」、特

に研究室の先生方から学んだことについて書きたいと思います。

改めて考えてみると、野外研の先生方は、大切なことは何ひとつ言葉にして教えてくれなかったような気がします。たとえ言葉で教えてくれたとしても、それが本当のところ何を意味するのかまでは教えてくれたことはなかったように思います。先生方の指導を見て、先生方からご指導を受けて、そうしてようやく見つけたほんの一握りのかげらこそ私がこの研究室で学んだ一番の宝物ではないかと考えています。先生方の言葉ではないメッセージを受け取る為に感性を研ぎ澄まし、先生方が言わんとすることはどのようなことであるのかを必死に考えた2年間でした。自分で見つけて、磨きをかけなければならぬ分、本当の意味での学びとして得たものは決して多くはないかもしれません。それでも、ズシンと心の奥底に響くような何かを得たような気がしています。これからの人生において自分の芯となるような、そんな宝物を頂戴した気分です。ここで学んだものが何であったのか。自分が持ちあわせている言葉では到底表現できそうにありません。今持っている言葉で表現してしまったら、せっかく見つけた宝物がととも安っぽいものになってしまう気がします。この“何か”を必死に磨いて自分の一部にすることができた時、きっと自分の言葉でぴったりの表現をすることができるのだと思います。それにはもう少し時間がかかりそうです。次に春を迎える時はもう少しははっきりと、その次の春にはより一層はっきりと、そんな風にこれからも学び続けたいと思っています。

春ですね。研究室員が入れ替わり新たな顔ぶれで2016年度の野外研がスタートします。今年もまた野外研が多く学びを生み出す素敵な場所でありますように。

【2015 年度野外研を旅立つ6人】

大学院生1名、学群生5名が今春卒業を迎えました。実習やキャンプ指導等を通して、どの卒業生もたくましい野外人になりました。

○大友あかね(にゃんちゅう)

2年間本当にお世話になりました。右も左もわからずに飛び込んできた私を親身になってご指導くださいました先生方、先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。野外の世界を覗き、2年経った今でもその奥の深さに圧倒されています。まだまだ見てみたい世界があります。自分に正直に、自分らしく、これからも野外の道を歩んでいきたいと思っています。ありがとうございました。



【勝手にセレクト:にゃんちゅう思い出の1枚】
野外研の大学院生としては1人で入学したにゃんちゅう。別の研究室から来たので、野外のことは何も分からない中、ひとりがむしゃらだったと思います。そんな寂しさを支えてくれたのは、休学して大学に残っていた野外研5年生の同期たちだったように見えました。
そんなみんなと沖縄へダイビング旅行へ行ったときの1枚。
(「ダイビング&無人島サバイバル過酷島一周旅行」です、By 安(左端))

○黒須雄翔(ちんぴー)

この度は先生方や先輩方のお力添えもあり、無事卒業できましたことを嬉しく思います。野外運動研究室での3年間は辛い時もありましたが、非常に居心地が良く、また、とても勉強になりました。3年の新入生歓迎会の際に言わせて頂いた「思い出作り」がたくさんできたと思います。さて、4月からは証券会社という新たなステージ働くことになりました。とても大変そうで恐ろしいですが、野外研で培ったハングリー精神で頑張っていこうと思います。勤務地は神戸になりましたので、近くにいらした際には声をかけて頂けると嬉しいです。今まで本当にありがとうございました。

○中村綱希(つなまよ)

野外運動研究室には、3年の春から3年間お世話になりました。夏と冬の2つの実習、南会津アドベンチャーキャンプ、野性の森でのフィールドワーク、先生たちとの楽しい授業、苦しかった卒論、振り返れば数え切れないほどたくさんの貴重な経験をこの研究室でさせてもらったなと感じています。

最高の同期、頼れる先輩、可愛い後輩、そしていつも素敵なお先生方、そんなかけがえのない多くの出会いに恵まれたのも、野外研に入ったからこそ。

春からは社会人になりますが、ここで得たたくさんのものを力に変えて、頑張っていこうと思います。ありがとう野外研！！



【勝手にセレクト：黒須(右)&中村(左)思い出の1枚】

2011年度入学組は蹴球部3人。川崎くん(中央)はとても優秀なので(by 本人)一足先に昨年度卒業。5年生として残った2人は就活を頑張りと、証券マンと商社マンになります。夏のキャンプで子どもたちとの別れに涙した、見た目に似合わぬ純粋ボーイツなまよ、「雄翔さんの話を聞いて野外研に来ました」という新専攻生がいるちんぴーの今後に期待です。写真は大学3年生時の雪上実習でかまくらを作る3人。

○大関久仁(よこづな)

研究室を離れるのは寂しいですが、ニューフェイスを揃え、すでに動き出した野外研を見てると、とても爽やかな気持ちです。私も頑張ります。

とにかく楽しかったです。先生方、室員のみんなに囲まれて、とても幸せでした。ありがとうございました。

野外研よ、永遠に！

○西島隆成(マーマン)

野外研に入って本当に多くのことを経験させていただきました。私は同期の2人に比べ、研究室の活動に参加した機会は少なかったのですが、どの活動もとても貴重な経験となりました。先生方や先輩方には迷惑ばかりおかけしましたが、実習や卒論などで本当にお世話になりました。ありがとうございました。周りの方々の支えがあつての今の自分だと思っています。4月からは社会人野球の世界に進みます。野外運動の世界からは離れてしましますが、新たなステージで必死に頑張っていきます。本当にありが

とうございました！

○吉沢直(ジャイロ)

野外研に入ったことは、私を大きく変えたと思っています。その中でも1番印象に残っていることについて、書かせて頂きます。

それは「強く働く」ことを知ったことです。はじめての整備実習、天候は土砂降り、そんな状況の中で、チェーンソーを振り回し(注：誇張表現です。By 教員一同)、まさに「強く働く」先生方や院生達の姿を見て、憧れを抱きました。野外研の仕事の中では、みんながテキパキとガンガン仕事をこなして、気持ちよく働いている。そのような集団の一員に、私もなりたいたと思いました。その時から感じている憧れは少しずつではありますが、私をいい方向に変えていってくれているように感じます。

春からは、引き続き大学院で学ぶこととなります。うまくいかないことが多く、落ち込むことも多いですが、立派な野外人と成るべく、精進していきたいと思っています。



【勝手にセレクト：

大関(右上)&西島(左上)&吉沢(左下)の思い出の1枚】
2012年度入学組は野球部3人。登山で鍛えた(?)粘り強さを生かして野球で大活躍する西島。3年生の時から野外研の活動にガンガン参加する珍しいタイプの大関&吉沢。そんな同期3人が一緒にガッツリ活動できたのはやっぱり実習。というこで、夏の実習での1枚。

春からは、消防士、社会人野球選手、院生とバラバラの道ですが、またみんなでスキー行きたいね。

【正課事業報告】

○体育専門学群 実技理論・実習 I 野外運動(雪上)

前川真生子(UG3)

[期日] 2016年2月19日(金)~23日(火)

[場所] 長野県菅平高原スキー場

[指導者] 井村仁(実習主任)、渡邊仁、高村直成(中央大学)、吉松梓(駿河台大学)、永井将史(国際自然環境アウトドア専門学校)、木塚朝博、栗本宣和(福井工業大学)、宮川俊平(医療)、新井洗真(MC1、補助員)、吉沢直(UG4、補助員)、前川真生子(UG3、補助員)、医療補助員1名

[参加者] 筑波大学体育専門学群1~4年生 40名
例年は1月に行われていた雪上実習ですが、今年

はカリキュラムの変更に伴い、2月開催となりました。受講生も履修の関係上40人と少人数でしたが、受講生たちの好奇心やチームワークで充実した実習となりました。今年は雪不足のため、22日に予定していた根子岳ツアーは、ホテル前の裏ダボスグレンデからラグビー場までのコースに変更になりましたが、シール登行とバックカントリースキーを楽しむことができました。ラグビー場から見た根子岳の姿がとても美しく、いつかあの山頂へ…！という声も聞かれるほどでした。

受講生の皆さん、先生方、野外研 OBOG の皆さん、補助員の皆さん、5日間ありがとうございました。



○体育センター スノースポーツ

大友あかね(MC2)

【期日】2016年2月18日(木)～22日(月)

【場所】新潟県岩原スキー場

【指導者】坂本昭裕、坂谷充、藤田花子(TA)、大友あかね(TA)、先生方10名

【参加者】筑波大学学群生および大学院生46名
今年度も体育センターの集中授業であるスノースポーツが実施されました。

実習中はスキー・スノーボードの実技講習だけではなく、講義やナイター講習、研究報告会も行われました。ナイター講習は生憎の雨模様の中の実施となりましたが、最終日には運良く晴天の下パウダースノーを満喫することができました。初めてスノースポーツに触れた学生から、上級者まで技術の向上や自然とのふれあいを通じて素敵な実習になったことと思います。



○研究セミナー(竹内靖子先生)

大友あかね(MC2)

【期日】2016年2月4日(木)

【場所】筑波大学5C棟309室

【参加者】井村仁、坂本昭裕、渡邊仁、坂谷充、佐藤冬果、大友あかね

坂本先生の研究室に研究員としておいでになっている竹内靖子先生(桃山学院大学)の研究セミナーが開催されました。現在進めておられる事例研究を中心に発表してくださいました。

先生の研究をお聞きした後のディスカッションでは、「キャンプでの子どもたちの変化・成長をどのように研究としてまとめるのか」「キャンプにおけるプログラム・グループの位置づけとは」「発達が気になる子どもたちにとってのキャンプの意味とは」といった点について意見が交わされました。キャンプを研究として扱う難しさとともにキャンプの奥深さにも触れた2時間となりました。

竹内先生、ありがとうございました。

(その他)

○日本スキー学会第26回大会

【期日】2016年3月13日(日)～16日(水)

【場所】たかみや瑠璃倶楽リゾート/蔵王温泉スキー場
「中学校におけるスキー体験学習の効果」

坂谷充、坂本昭裕(筑波大学)

【課外事業報告】

○TOEL: 南会津スキーキャンプ2015

佐藤冬果(MC2)

【期日】2016年3月26日(土)～29日(火)

【場所】福島県南会津郡針生地区周辺/
だいくらスキー場/ペンション駒戸

【主催】TOEL

【指導者】渡邊仁、藤田花子、佐藤冬果、新井洸真、大関久仁、吉沢直、研究室外から2名

【参加者】小学4年生～高校2年生29名



29名の参加者とともに、アルペンスキー講習、クロスカントリースキーツアー、スノーキャンドルタワー作りなど、盛りだくさんの4日間を過ごしました。

スキー講習では雪不足が心配されましたが、スキ

一場の皆さんが意地で雪を敷き詰めてくださり、滑りやすいバーンでみっちり講習を行うことが出来ました。初心者班も上級者班も、めきめき上達していました。

クロスカントリースキーでの鳴沼ツアーは、予定を変更して2日目に実施しました。鳴沼では焚き火をしたり、雪合戦をしたりとおもいおもいに過ごし、子どもたちもイキイキとした顔をしており、スキーの楽しさ、冬の自然を満喫したキャンプになりました。ありがとうございました。

○立正大学サッカー部 雪上野外研修プログラム

佐藤冬果 (MC2)

[期日] 2016年2月27日(土)~29日(月)

[場所] 福島県南会津郡針生地区周辺

七ヶ岳林道/民宿福島屋/ほしっばの家

[指導者] 渡邊仁、佐藤冬果、藤田花子、大友あかね、新井洸真、大関久仁、吉沢直

[参加者] 立正大学サッカー部 35名、スタッフ5名
ASE や筑波山登山などの野外研修プログラムを毎年取り入れている立正大学サッカー部が、ついに雪山にやってきました。参加したのは新2~4年生。1日目に雪上生活技術のトレーニングをし、民宿泊。2日目からスノーシューを履いて七ヶ岳林道を登り、登山口でテント泊。3日目に下山するプログラムを行いました。

初めは不安からか、ネガティブな発言も見られましたが、覚悟が決まれば強い皆さん。出発から道を間違えてハードな斜面を下る&登り返すアクシデントに見舞われましたが、そこでスイッチが入ったのか、林道はかなりのスピードで上がっていきました。寒い雪中テント泊を乗り越えて帰還した部員の皆さんは、とてもたくましい顔をしていました。立正大学サッカー部のご活躍を期待しております！



○親子で楽しむ自然体験活動

新井洸真 (MC1)

[期日] 2016年3月5日(日)

[場所・主催] つくば市科学万博記念公園

[協力] 筑波大学野外運動研究室&TOEL

[参加者] 幼児~小学校5年生までの子どもと保護者の方約30名

[指導者] 渡邊仁、佐藤冬果、藤田花子、新井洸真、吉沢直



昨年に引き続き、卒業生である平山善規さん(NPO法人日本スポーツ振興協会)から依頼を受け、つくば市科学万博記念公園で1日の公園キャンププログラムを行いました。一番身近な野外である公園から、自然体験活動に触れてもらうことを目的としてプログラムを実施しました。活動内容として、ネイチャーゲーム、テント設営、ガスバーナーによるお湯沸かし、クラフト活動といった公園の中でも実施できるものを行いました。都市化、社会化のなかで自然と触れ合う機会が減少する今、家族で気軽に立ち寄ることが出来る身近なアウトドアである公園から、自然体験活動の素晴らしさのエッセンスを伝えることができる機会になりました。

○立正大学サッカー部 野外研修プログラム

ASE&筑波山登山

吉沢直 (UG4)

[期日] 2015年3月8日(ASE)、10日(登山)

[場所] 筑波大学野性の森、筑波山

[指導者]

ASE: 渡邊仁、坂谷充、新井洸真、大関久仁、吉沢直、飯野亜耶奈

登山: 新井洸真、吉沢直、藤田花子、飯野亜耶奈

[参加者] 立正大学サッカー部新入部員18名、スタッフ2名

立正大学サッカー部の新入生を対象に野外研修プログラムが実施されました。私自身、このプログラムは昨年に続き2回目の指導となりました。まず行われたASEでは、前日初めて顔を合わせた仲間達と緊張感もありながらも、課題に対して楽しみながら挑戦している姿が印象的でした。

その2日後に行われた筑波山登山では、部員の皆さんは筑波山の麓から走り、中腹の筑波山神社まで登ったところから我々が合流するという形で行いました。それでもなお、置いていかれそうになる場面が何回もあり、現役サッカー選手の体力に驚かされました。最後の振り返りでは、3日間のプログラムに対して、またこれからのことについて、それぞれの思いが語られていました。

今年もこのプログラムに関わらせてもらいましたが、毎年、初心を思い出します。大学生になる時、

どんな気持ちだったか？何がしたかったのか？今の自分はどうか…？そんなことを考えると、指導者である私自身、引き締まる思いになります。

今年もありがとうございました。立正大学サッカー部の今後のご活躍をお祈りしています。

○坂本研ゼミ合宿 in 戸隠

大友あかね(MC2)

[期日] 2016年3月9日(水)～10日(木)

[場所] 戸隠スキー場および周辺

[参加者] 坂本昭裕、坂谷充、大友あかね、前川真生子
坂本ゼミのメンバーで、戸隠で合宿を行いました。降りしきる雪を眺めながらの会食に、「本当に幸せ！」と何度も心の中で叫びました。こんなにも贅沢な楽しさを知ってしまったのは幸か不幸か…。下山は湿雪に悪戦苦闘しながらも、予定の倍の時間をかけてなんとか滑り降りることができました(転げ落ちた…?)。そして、夕食後は真面目に研究発表を行い意見を交わし、夜は更けていったのでした。

(その他)

○とわの森三愛高校

テニス部 グループワークトレーニング

[期日] 2016年3月26日(土)

[場所] 筑波大学野性の森

[指導者] 坂本昭裕、坂谷充、大友あかね、飯野亜耶奈、他大学から1名

[参加者] とわの森三愛高校テニス部26名、監督

【個人実践】

○第4回大学交流スキーキャンプ

佐藤冬果(MC2)

[期日] 2016年3月2日(水)～3日(木)

[場所] 長野県エコーバレースキー場

[参加者] 佐藤冬果(筑波大)、飯野亜耶奈(筑波大)、徳田真彦(大阪体育大)、飯田輝(大阪体育大)、高橋宏斗(大阪体育大)、角谷俊樹(大阪体育大)、福田知紗(大阪体育大)、堀美奈子(山梨大)、川田泰紀(仙台大)、谷中理矩(千葉大)、山口晋平(千葉大)、堀井洋邦(目白大)、北條彩夏(目白大)、大杉夏葉(ARC' TERYX)、
講師: 黒澤知嗣氏(茨城県デモンストレーター)



野外教育を志す学生同士の交流とスキー技術向上を目的に、昨年から開催している大学交流スキーキャンプを今年度も行いました。第1回から数を重ねる中で参加者数もその所属大学も増え、今回は筑波の2名に加え、大阪体育大学、山梨大学、目白大学、仙台大学、千葉大学の計6大学から14名が集まり、ついに主任検定員としてゲスト講師をお呼びし、SAJのバッチテストを実施するまでに至りました。準指導員&C級検定員を持つ佐藤(筑波大)と谷中(千葉大)が講師役に加わり、日中は3班編成で講師をローテーションしながら検定に向けガチで講習を行いました。夜は貸切ロッジで鍋を囲んで語り合い、交流とスキー上達、という目標を大いに達成することが出来た2日間でした。

個人的には、今まで全ての回の運営?発起?に関わってきたわけですが、来年以降、もう私が関わらなくてもこのキャンプは開催されるんだろうなあとというところまで、この行事が実になり、野外教育を学ぶ学生同士の繋がりが強くなったことがとても嬉しく感じたキャンプでもありました。今、学ぶ中でも、将来的にも、この縁は何かしらの意味があるのだと思います。是非、次回交流キャンプ(夏か冬かは分かりませんが)には筑波野外の皆さんも一緒に行きましよう!



○白馬バックカントリー

吉沢直(UG4)

[期日] 2016年3月14日(月)～16日(水)

[場所] 長野県白馬エリア

/新井実家ペンション「シャンツェ」

[参加者] 新井洸真、吉沢直、他大学から1名

お昼には白馬に到着。昼食後、新井家にお世話になりました。新井家は、標高約1000m、柵池スキー場まで徒歩5分で行けるといふ最高の立地で「シャンツェ」というペンションをしています。午後は新井家の裏山(割と立派な山)でみっちりビーコントレーニング。普段はふざけてばかりいる3人ですが、命を救う場面の練習ということもあって、これまでにない緊張感をもって取り組みました。トレーニング終了時には、3人ともへろへろになるまで追い込みました。

2日目は白馬乗鞍岳を山頂から、天狗原、沢筋を約7.5キロを滑り降りるコースに挑みました。3月に関わらず、先日降った雪がパウダー状に残っており、上部は最高のコンディションでした。強風でゴンドラが遅れ、ロープウェイも動かず、それでも自力で山頂を目指しましたが、最終的には天狗原で滑り返し、山頂は諦めることになりました。ロングコースを1日かけて堪能することができ、ゴール時には



充実感でいっぱいになりました。

3日目は八方尾根スキー場最上部からさらに標高をあげ、八方押し出し、ガラガラ沢を滑走しました。天気も快晴で登りの途中で見える景色は本当に絶景でした。上部は雪質もよく気持ちよく滑ることができましたが、ルート下部はデブリだらけで苦しめられました。大きな斜面の標高差 900 メートルを一気に下るコースで、北アルプスの異世界感を感じながら楽しむことができました。

3日間おおむね好天に恵まれ、地元を満喫してることができました。さらなる疑問点・課題も多く生まれ、今後さらに学んでいく必要性を感じた実践となりました。

○祝！ 向後先生御結婚

佐藤冬果(MC2)



前任の本学特任助教である向後佑香先生(現在、筑波技術大学)の結婚式が 2016 年 3 月吉日に行われました。青空のもと、真っ白なドレスに身を包んだニモ先生はとても御綺麗でした。

そして、平成 18~21 年頃野外研究室員として活躍した面々が集合し、披露宴では存分に野外研のスタンツスキルを発揮。久々に一緒に活動する中で諸先輩方の底力に圧倒されたのでした。

リレーコラム~0B・0G からのメッセージ~

リレーコラム 98 年度卒業・00 年度修了

蓬田高正さん



みなさん、こんにちは。98 年度卒業・00 年度大学院修了の蓬田高正です。現在はこの 4 月に着任した天理大学体育学部 に所属しています。その前は国立青少年教育振興機構で約 14 年ほど、オリンピックセンターや国立淡路青少年交流の家に勤務し、主催事業の企画運営や独法評価・事業仕分けを担当していました。

前回の内藤さんとは、UG 同期と一緒にキャンプやスキーに行った仲間です。そのほかにもこのリレーコラムでは田中健介さん、豊留雄二さんが同期です。当時は同期がもっとたくさんおり、賑やかだったことを思い出します。

その内藤さんですが、スキーインストラクターから転職をされてずっと主催事業にゲストとして呼びたいと思っていました。そんなときに冒険プログラムの広報に関する分科会をやることになり、迷わず内藤さんを推薦しました。私としてはやっと念願がかなった瞬間でした。当日はとても分かりやすい例えを使いながら、集客の仕方や参加者募集の仕方を丁寧に説明してもらい、また参加者の質疑にも懇切丁寧に答えてもらうなど、盛会のうちに事業を終了することができました。

私は常にキャンプや主催事業でこんなことをしたいなあと、ゲストにあの人を呼びたいなあと考えています。いざその時になって考えてもいいアイデアは浮かびません。せつかくの自分がやりたいことを実現できるチャンスを逃してしまうことにもなります。

ですので、在学中の学生のみなさんや社会に出て間もない若い方々には、「自分はこんなことをしたい!」、「この人と一緒に仕事をしたい!」ということを思い描いてみてください。それは必ず実現するチャンスが訪れます。そして様々な経験をして、それを実現するための力も身につけましょう!

【編集後記】

野外研院生として過ごす 5 度目の春(!!)です。卒業していくみんなとは雪上実習やキャンプでたくさんの思い出ができました。たくさんイジってくれてありがとう。キ

ャンプの為にたくさん頑張ってくれてありがとう。一緒に野外教育と向き合えてよかったです。みんなの活躍を筑波から応援しています!
佐藤冬果(M2)